

## 折々の記 No182 : 断行すべし！

(H23/10/29 記)

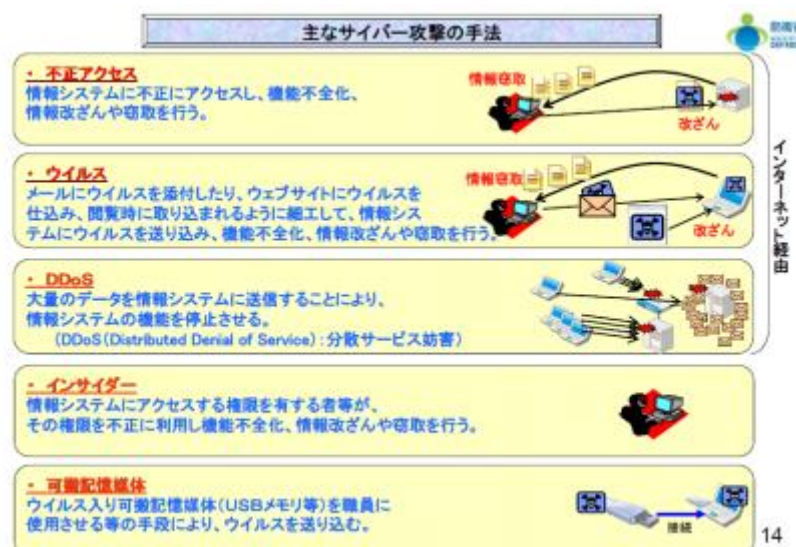
由々しき事態である。我が国防衛産業の中核である三菱重工の本社や護衛艦を建造する長崎造船所等がサイバー攻撃に晒された。サイバー攻撃は8月に発覚。ミサイルや航空機エンジンを生産している「名古屋誘導推進システム製作所」(愛知県小牧市)など国内11拠点のサーバー45台とパソコン38台がウイルス感染し、外部へのデータ送信を命令する「トロイの木馬」を含む50種類以上のウイルスが確認された。同じく防衛産業大手のIHIもサイバー攻撃を受けていたと公表した。

9月17日夜には、人事院や内閣府などが管理するホームページがサイバー攻撃を受けて閲覧不能になったとも報じられた。また、衆議院のパソコンも「トロイの木馬」に感染し、在外日本大使館を狙ったケースや国土地理院も被害を受けていたとされる。

何処の国が関与しているかは断定は出来ないが、ある程度推測は出来よう。グーグルを標的にサイバー攻撃を仕掛けた国は何処か、サイバー空間や宇宙を第4、第5の戦場と規定して戦力整備に狂奔している国は明らかである。少なくともサイバー攻撃の発信元の殆どは中国である。

米国の衛星もサイバー攻撃を受けたとする報告書を米議会の諮問機関が纏めた。社会機能の麻痺に止まらず国の安全保障にも深刻な影響を及ぼすことは明らかである。

「防衛省・自衛隊におけるサイバー攻撃対処」(平成22年5月)という資料によれば、サイバー攻撃の手法には表のような5つがあるという。



野田佳彦首相は、10月28日午後の衆参両院本会議で、就任後2度目の所信表明演説を行ったが、少々物足りなさを感じた者は小生のみではあるまい。今までは安全運転に徹してきた首相であったが、国家の根幹をなす事柄に関して黙して語らずであった。我が国周辺の安全保障上の脅威の増大にどのように対処するのか、毀損した日米同盟の再構築をどのように進めるのか、自衛隊の直面する重要課題、喫緊するものは武器輸出3原則やPKO派遣5原則に係る事項等が欠落していた。



つい先日、泥鰌宰相に贈ると題して次のような七言絶句を作詩して、そろそろ野田氏本来の持ち味を出して頂きたい、頂けるものと期待したばかりなのだが・・

贈泥鰌宰相（泥鰌宰相に贈る）

先慶一夢極芳姿（先ず慶す、一夢ありて芳姿（芳しい姿＝首相）を極む）

只管慎重雌伏時（もっぱら慎重にするは、今は雌伏の時かと）

内憂外患天忽暗（内憂と外患に満ち、天は忽ちにして暗く）

唯当断固導国基」（ただまさに断固として国の基を導くべし）

鳩山、菅の両首相時代に大きく損なわれた国益を再確認し、それらを再度追求するための方向性を示し、強力なリーダーシップを発揮すべきである。余程のことが起きない限り後2年近くは野田政権が続くのである。今更何を失うと云うのか、抵抗があるは当たり前だ。小泉首相ほどのリーダーシップが欲しいものだ。勿論我が国の優秀な官僚組織を使いこなして内憂外患を解決して貰いたい。右顧左眄する必要などない。手を拱いている時間的余裕はない筈だ。『史記・李斯伝』に云う「断じて敢行すれば、鬼神も之を避く」と！！